

アドミッション・ポリシー

地域理解力・企画立案力・協働実践力を統合した「地域協働マネジメント力」を基礎に、人間や社会の喜びや幸せ、安心につながる価値を大切に、公共政策、教育・スポーツ、生活・福祉、文化・デザインの専門性を生かして、公共サービス領域における新たな社会的・公益的価値を創出できる「地域協働公共人材」を育成します。

知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体性・多様性・協働性	関心・意欲
公共的な空間における基本的原理を理解し、社会的事象等について調べまとめる技能について、高等学校卒業程度の水準を有している。	- 物事を論理的に思考する能力を有している。 - 物事を客観的に分析し、適切に判断する能力を有している。 - 自分の意見を他者に的確な表現を用いて伝えることができる能力を有している。	- 課題解決に向けた積極的な探求心と学問的好奇心を有している。 - 他者の立場や多様な価値観を尊重し、受け入れる態度を有している。 - 考え方や価値の異なる人や組織と対話や協働を通じて課題解決にのぞむ態度を有している。	- 新しい発想や仕組みを考えることに関心を持っている。 - 自らの学びや経験を社会全体の利益へ還元したいという意欲を持っている。 - 協働的な活動に、最後まで粘り強く取り組む姿勢を持っている。

選抜・評価方法

※設置申請中の予定であり、変更する場合があります。

募集人員 30名

総合型選抜Ⅰ 募集人員：9名

- 選抜の方法 大学入学共通テストを課さず、本学独自の試験(200点)で判定します。
- 重点評価項目 「主体性・多様性・協働性」と「関心・意欲」に重点を置いて、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」を含め総合的に評価します。

本学独自の試験(合計200点)
面接(200点)
自己の経験や実績等に関する発表(持ち込み可)、発表への質疑応答及び志願理由に関する掘り下げを行い、本学科の教育カリキュラムへの適性を評価します。

学校推薦型選抜Ⅰ 募集人員：5名

- 選抜の方法 大学入学共通テストを課さず、本学独自の試験(400点)で判定します。
※出願資格として高等学校等を2027年3月卒業(修了)見込みの者で、学校長の推薦(評定平均B段階(3.5-4.2)以上、各校1名)を求めます。
- 重点評価項目 「思考力・判断力・表現力」と「関心・意欲」に重点を置いて、「知識・技能」「主体性・多様性・協働性」を含め総合的に評価します。

本学独自の試験(合計400点)	
グループワーク(200点)	面接(200点)
グループ活動を行ってもらい、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」について判定します。	個人課題の発表、発表への質疑応答及び志願理由等に関する掘り下げを行い、本学科の教育カリキュラムへの適性を評価します。

一般選抜(前期日程) 募集人員：16名

- 選抜の方法 大学入学共通テスト(500点)と本学独自の試験(300点)の合計800点で判定します。
- 重点評価項目 「知識・技能」と「関心・意欲」に重点を置いて、「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を含め総合的に評価します。

大学入学共通テスト (合計500点)	本学独自の試験(合計300点) 面接(300点)
3教科3科目又は4教科3科目合計500点で実施します。 ●国語(200点)、外国語(200点)※は必須です。 ●残りは、地歴、公民、数学、理科、情報の中から1教科1科目又は2教科1科目を自由に選択できます。(100点) ※「外国語」の教科について「英語」はリスニングを含む。	志願理由等に関する掘り下げを行い、本学科の教育カリキュラムへの適性を評価します。

パブリック イノベーション学科 (仮称)

2027年度開設予定



地域に新風を 巻きおこす!

パブリックイノベーションとは、学術的専門性やネットワークをベースに、持続可能な社会的・公益的価値を生み出し、公共サービス領域に新たな変革を起こすことです。これまで地域協働学部が取り組んできた「地域協働産業人材」に加え、「地域協働公共人材」の育成を強化することで、学部全体のリニューアルを図ります。

転換点を迎えた日本。求められているのは…

「公共領域」に「変革」をもたらす パブリックイノベーション人材の活躍！

※Model Caseは、本学科の卒業後の進路と活躍をイメージしたものです。

Model Case.01

地域を動かす公務員 地域政策・行政イノベーター

▶社会に出て実現したこと

自治体の職員として、人口減少に悩む中山間地域で移住・起業支援を推進。AI分析を活用して地域資源マップを作成し、住民提案型補助制度を設計した。↑

AI活用で行政が進化する瞬間に
立ち会えたことが最大の感動でした！

▶学科での学びがどう活かされたか

「公共政策論」「行政実務講座」「パブリックイノベーション演習」での実践経験が粘り強さと柔軟な発想を生み出した。↑



Model Case.02

スポーツ分野の公共人材 地域スポーツクラブ・マネージャー

▶社会に出て実現したこと

地域の総合型スポーツクラブで、多世代が集う健康づくりの拠点を運営。行政補助金に頼らず、企業協賛と市民出資を組み合わせた「共助モデル」を構築した。↑

この学科での学びが、
地域の笑顔に直結しました！

▶学科での学びがどう活かされたか

「スポーツ社会学」「生涯学習と市民協働」で学んだパブリックマネジメント思考を身につけたことが、地域住民の「楽しさと幸福」を軸にした持続的運営の実現につながった。↑



Model Case.03

福祉分野の公共人材 コミュニティ・ソーシャルワーカー

▶社会に出て実現したこと

高齢者の見守りと子育て支援を一体化した「地域福祉リビングラボ」を立ち上げ、行政・企業・ボランティアをつなぐ協働のシステムを作り上げた。↑

“課題をつなぐ力”を磨けた
ことが今の自分の原動力です

▶学科での学びがどう活かされたか

「社会福祉論」「ソーシャルキャピタル論」で培った協働設計力が、住民の声を丁寧に聴き、制度の隙間を埋める仕組みを創出することに結びついた。↑



Model Case.04

文化・デザイン分野の公共人材 NPO職員・地域づくりコーディネーター

▶社会に出て実現したこと

NPO職員として、地域の文化資源や住民の活動を活かし、まちの魅力を高めるプロジェクトを企画・運営。自治体や企業、住民と協働しながら、人が集まり、関わり続けなくなる公共の場づくりに取り組んだ。↑

数字だけでは見えない
地域の魅力を分ちちしました！

▶学科での学びがどう活かされたか

「デザイン論」や「NPO論」での学びを活かし、地域にある文化や人のつながりを、新たな公共的価値として発信する力が身についた。↑



目指す人材像

1 スポーツ、健康、ジェンダー、福祉、社会教育、デザイン等の専門的な視点から、地域住民の楽しさや喜び、幸せといった地域のウェルビーイング向上に挑み続けることができる人。

2 行政・公益機関・NPO・企業・住民など多様な主体と協働しながら、新たな公共サービスや社会的仕組みの創出に粘り強く主体的・自律的に取り組むことができる人。

3 公益マインドを持ち、アカデミックな視点から地域の課題を分析・評価し、専門的ネットワークやAI技術等を活用して、政策提言や制度設計に結びつけることができる人。



想定される進路・活躍のフィールド

- 地方自治体、公務員、行政関連団体、調査研究機関 など
- 社会教育施設、地域スポーツクラブ、スポーツ関連団体 など
- 社会福祉協議会、福祉施設、子育て支援機関 など
- 文化施設、NPO/NGO、公益法人、まちづくり団体 など

取得できる資格

- 社会調査士
- 社会教育主事 (社会教育士称号を含む)
- 学芸員

“協働”×“公共”のチカラが社会を変える！

これからの地域では、教育、スポーツ、福祉、文化、まちづくりなど、暮らしを支える「公共」のあり方が大きく変わろうとしています。公共は、行政だけが担うものではありません。住民、自治体、NPO、企業、学校など、多様な人たちが協働しながら、これまでの仕組みを見直し、地域に必要な新しいサービスや活動を生み出していく時代です。

パブリックイノベーション学科では、地域の現場に出て、課題を見つけ、現場の声やデータをもとに分析し、3つの分野の専門性を横断的につなぎます。そして、安心、学び、健康、楽しさ、つながりといった公共的価値を、新しい仕組みとして社会に実装する力を育てます。

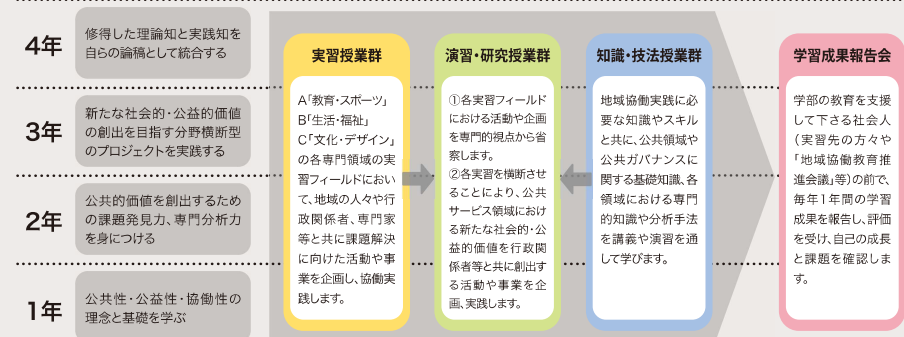
カリキュラムポリシー

「課題」も「幸せ」も、地域にある！

1 年次から地域に出て、公共領域の使命と創出すべき価値を学びます。PBLやグループディスカッションを通じて課題を発見・分析し、分野横断型プロジェクトに取り組みます。4 年次には、理論知と実践知を卒業研究に統合し、新たな公共的価値の創出を目指します。

▶カリキュラムの特徴

「公共政策・ガバナンス領域」「教育・スポーツ分野」「生活・福祉分野」「文化・デザイン分野」を中心に授業・実習を構成します。



▶学べる主な専門科目

公共政策論、ソーシャルキャピタル論、リスクマネジメント論、NPO論、持続可能な地域計画論、生涯学習支援論、スポーツ社会学、健康運動指導論、地域福祉論、ジェンダーと地域社会、くらしと環境1、デザイン論1(基礎)、文化芸術特論、地域映像クリエイション演習、ランドスケープ実践演習